

ご じょう かぜ 五條風の会

子どもの頃から語りつながれてきた「八朔の千燈明」を絶やさぬよう、少しでも多くの区民に対し伝えていく活動を、と思い立ちました。伝統行事の衰退には、支える担い手の高齢化、あるいは都市化などの要因がありますが、これら乗り越え、後世の人たちに伝えていかなければならないと思います

五條風の会は、今回、太宰府市民遺産を提案するにあたって設立しました。発足は平成22年(2010)。五条区役員・子供会・区民が一体となって、「八朔の千燈明」を守り続けることを育成活動として掲げています。



平成27年の
八朔の千燈明



天満宮本殿前での
お祓いのようす

点火の前に、子どもたちへ「八朔の千燈明」の
由来が語られる



献燈中のお参りのようす

太宰府市民遺産とは・・・

市民の一人ひとりが、大切に思うモノ・人・出来事。これを将来に伝えていきたいと思う物語と、守り育てる活動に対して、多くの市民が太宰府にとって大切なんだと納得したものです。

太宰府市民遺産(太宰府市景観・市民遺産会議で認められた宝)
=守り・育てたいモノ + 守り・育てたいモノが歩んできた物語 + 守り・育てたい「ちから(活動)」



■例えば

- まちづくりの基礎をつくりあげた人
- 四王寺山の堂々たる姿が見える場所
- いつもお詣りしているお地藏さん
- 道ばたにある、むかしの道標
- おばあちゃんがやってる数珠くり
- 40年つづく団地の夏まつり



など、将来に伝えたい太宰府の個性がたくさんあります。

八朔の千燈明

太宰府市民遺産: 第2号
認定: 平成23年1月30日
景観・市民遺産育成団体: 五條風の会
発行日: 平成28年3月1日

太宰府市景観・市民遺産会議【URL:<http://www.市民遺産.jp>】



太宰府市民遺産

第2号

八朔の千燈明



五条の八朔の千燈明

五条区では、毎年9月1日に八朔の千燈明とって、太宰府天満宮に献燈をする行事が続けられています。そのはじまりは100年以上前にさかのぼります。

江戸時代、太宰府で流行り病がおこり、五条でもたくさんの方が命を落としました。そこで、困った五条の人々が太宰府天満宮に願立をしたところ、患う人が出なくなったといいます。以来、五条の人々はそのお礼として、八朔(旧暦の8月1日)に千燈明を捧げるようになったと伝えられています。



昭和60年の八朔の千燈明

八朔の千燈明関連年表

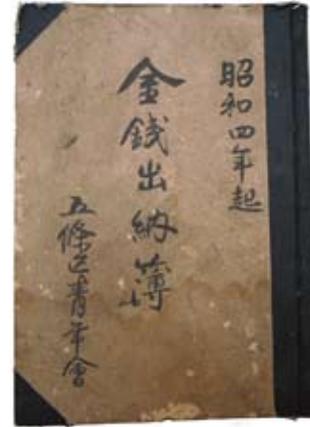
	年代	五条地区の主な出来事
江戸	江戸時代後期頃	八朔の千燈明始まる
明治		
大正		
昭和	昭和15年頃	青年たちが戦地へ行くようになり、八朔の千燈明が途絶える
	昭和20年8月	終戦
	昭和25年	天満宮の千燈明が復活する
	昭和38年前後	区長の発案で八朔の千燈明が復活する
	昭和44年	今の五条公民館建つ
平成	平成23年1月30日	八朔の千燈明、太宰府市民遺産に認定

戦前の八朔の千燈明 - 五條青年会 -

戦前、この行事の中心的担い手は、青年団でした。男性は小学校卒業後から25才まで、青年団に属しました。40名余りが集まって、竹切りからロウソクや縄の購入、設営作業と、八朔の千燈明の準備を行いました。

八朔の千燈明は当時、天満宮のおまつりを除いては、五条の一大行事だったといえます。

やがて戦時中には、天満宮の千燈明と共に八朔の千燈明も一時途絶えてしまいます。



▲五条の青年団の出納簿

9月1日にロウソクや針金を購入したことが記されており、八朔の千燈明を青年団でとり仕切っていたことがわかる。

戦後の復興 - 五条の人たちの思い -

昭和20年(1945)の終戦後しばらくは、まだ物資が十分に無いため、天満宮の千燈明も五条の八朔の千燈明もできませんでした。また、当時青年団には八朔の千燈明を経験した人がほとんどいませんでした。

そうした中、昭和38年に区の行事として、八朔の千燈明が再び行われるようになります。再興当時は区長と隣組長が中心となって行っていました。戦前に青年団として八朔の千燈明を支えていた人たちです。

その頃の五条区長のおひとりが、当時言っていたことには「昔、五条が八朔の千燈明のあっとったっちゃけん、せないかんもんな」



昭和60年の八朔の千燈明

その思いが繋がれて、はや半世紀、戦前に青年団だった人たちの子孫が今や自治会長として、現在も八朔の千燈明を守り続けています。

今では地元子ども会も参加し、五条の夏のおわりの風物詩としてにぎわっています。

火が灯っている間は、百度参りのように、反り橋の終わりから楼門の間を行ったり来たりしてお参りをした。

八朔の千燈明のながれ

- ①9月1日夕刻、五条公民館に集合し、天満宮まで皆で歩く。
- ②当直の神官からお祓いを受け、御神燈をいただく。
- ③いただいた御神燈で一斉にロウソクに火を灯す。(午後8時頃)
- ④ロウソクが小さくなるまで(約1時間)、火を灯し続け、その後片付けて終了。

千燈明を行う場所▶

戦前は反り橋の左手側と心字池の周囲で献燈していたが、戦後は反り橋の終わりから楼門の間で行うようになった。



平成20年の八朔の千燈明

燈明を並べる子どもたち



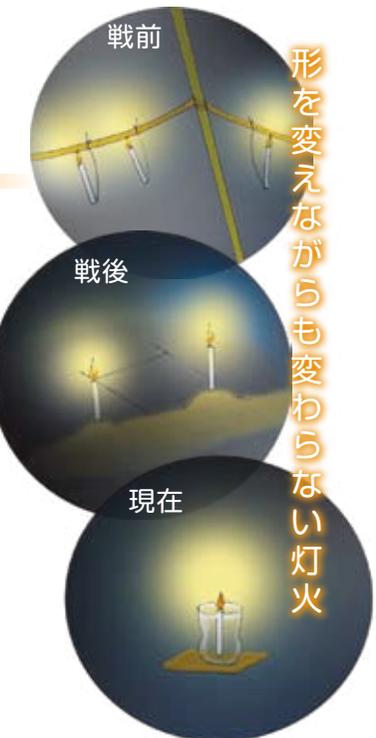
点火風景

燈明のうつり代わり

戦前に青年団で行っていた頃は、天満宮の千燈明と同様に、竹と縄と針金を使って燈明を飾りつけていた。

戦後は竹を切ったりする若い人手が不足したこともあり、規模が縮小する。地面にロウソクを立て、砂で固定する。

最近ではペットボトルと板を利用して燈明を工作している。こうすると風よけができて火が消えにくい。



形を変えながらも変わらない灯火